愛媛県教育委員会
人権教育課
2026年(令和8年)
2月発行

えひめ愛顔の子ども新聞

えひめの子どもたちへのメッセージ

～人とよりよい関係を築くためにできること～

愛媛県教育委員会教育長
髙岡哲也

令和７年11月20日(木)、四国中央市土居文化会館をセンター会場に、今年度も県内一斉ライブ授業「えひめいじめSTOP!デイplus」が開催されました。これまでの取組を受けて、今年度は「私にできること」をテーマとし、県内の小学６年生と中学１年生、約22,000人がいじめをなくすため、具体的にどう行動するべきか考える機会となりました。

ライブ授業では、いじめが起こる原因、いじめがなくならない理由、居心地のよい環境づくり、更には、誰かの味方になり、味方を増やし、見方を振り返るための「ジブンミカタプログラム」を通した人とのよりよい関係づくりについて、活発な話合いが行われました。盛りだくさんの内容でしたが、いじめをなくすことへ気持ちが高まり、自分にできることが見つかったとの声が多く寄せられたことや、いじめ問題に対して真正面から向き合い、他人事ではなく自分のこととして真剣に議論している皆さんの姿を拝見し、たいへん心強く思いました。

また、「自分にできること」として、「いじめを絶対に見逃さない」「言葉を選んで話す」「つらい思いをしている友達にそっと寄り添う」という意見が発表されたことは、私たち大人も深く考えさせられました。

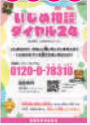
大切なことは、このライブ授業で交わした考えや思いを、実際の行動に移すことです。いじめ問題は、たった90分で解決するような簡単な問題ではありません。この日誓った熱い思いを、忘れることなく、自ら考え、行動し、みんなが安心して生活できる楽しい学校・地域づくりに励んでほしいと強く願います。

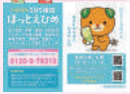
加えて、すべての子どもたちが良好な関係を築きながら、伸びやかに生活していくためには、地域社会全体で人権を尊重する雰囲気が必要であることは言うまでもありません。子どもたちは、私たち大人が思っている以上に悩み、考え、毎日を生きています。私たち大人も、いじめ問題をはじめとする子どもたちを取り巻く様々な問題に積極的に関わりながら、子どもたちの成長を支えていきましょう。

最後に、本事業の開催に当たり、御理解と御協力をいただいたすべての皆様に、心から感謝申し上げます。

相談窓口

困ったときは一人で悩まないでね


いじめ相談ダイヤル24
0120-0-78310


SNS相談
ほっとえひめ

愛媛大学教育学部の学生から

センター校やリモート校のみなさんが、立場のちがう友達の意見をしっかり聞きながら、真剣に話合っている姿がとても印象に残りました。

意見がちがっても否定せず、「そういう考え方もある」と受け止め合う様子から、互いのちがいを大切にしようとする気持ちが伝わってきました。

話合いを通して、いじめをなくすためには、強い言葉を使わないことや、困っている人に気付いて声をかけることなど、毎日の小さな行動が大切であると感じました。

今回出た「私にできること」は、児童生徒のみなさんだけでなく、私たち教師を目指す学生にとっても、これから意識していかなければならないことです。

将来教師になったときには、一人ひとりの考えや気持ちを大切にし、安心して話せる学校を、みなさんと一緒につくっていきたいと思います。

令和８年度は、南予の小中学校をセンター校として「えひめいじめSTOP!デイplus」を開催します。

県内一斉ライブ授業 えひめいじめSTOP!デイplus開催 ●●● 私にできること

小中学生
約22,000人が参加

令和7年11月20日(木)、土居文化会館をメイン会場に、県内のすべての小学校・中学校をオンラインでつないだ一斉ライブ授業「えひめいじめSTOP!デイplus」が行われました。小学校6年生と中学校1年生を中心に、約22,000人が参加し、「私にできること」をテーマに話し、学び合いました。

はじめに、「いじめはどうして起こるのだろう」「なくすために何ができるのだろう」という問いについて、グループワークを行いました。相手の考え方や感じ方のちがいによって、相手の気持ちが分からなくなることで不安な気持ちが起こり、それらがいじめのきっかけになることがあると学びました。そして、相手の立場になって考えることや、自分の気持ちを言葉で伝えることの大切さに気付きました。

また、学校やクラスの「雰囲気」についても考えました。「安心して過ごせるか」「困ったときに相談できるかどうか」は、とても大切なことです。一人ひとりが自分を大切にし、友達の小さな変化に気付き、優しく接することで、あたたかい雰囲気のクラスをつくることができると学びました。

最後に、「私にできること」について考え、「ありがとうを伝える」「困っている人に声をかける」「苦手な人とも少しずつ話してみる」などライブ授業を通して、参加した子どもたちは、いじめをなくすために自分ができる一歩を再認識する貴重な時間となりました。

事前授業

センター校・リモート校では、愛媛県教育委員会による事前授業を実施し、「いじめはどうして起こるのだろう」というテーマで話合いをしました。

センター校

四国中央市立妻鳥小学校

四国中央市立川之江北中学校

リモート校

東温市立南吉井小学校

東温市立重信中学校

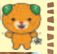
愛南町立平城小学校

大洲市立大洲南中学校

事前授業の感想

- 相手のことを何も考えずに話すことがある。受け取り方は人それぞれなのに、自分が思っていることと相手が思っていることが理解できない。そんなことがいじめにつながる。
- 仲がいい友達から嫌なことを言われたとき、「嫌！」ということで仲が悪くなることを恐れて言うことができない。仲がいいからこそ言う方はなんでも言ってしまう。言われている方はどんどん嫌な気持ちになってしまう。
- はじめは楽しくて、面白そうだからいじっていたけど、相手の気持ちを考えずにいると、いじめに発展する。言葉を発するときにも、相手の気持ちを考えて発するようにしていけばいじめはなくなる。

ライブ授業当日



アクション①

「いじめはどうして起こるのだろう」

はじめに、いじめの始まりについて考えました。会場からは、「最初はいじりでも、それがだんだんひどくなっていくことがある」「人のちがいを理解しようとしなかったり、認めなかったりすることが原因になるのではないか」といった意見が出ました。また、「いじめを見ているだけでも、止めなければいじめを認めてしまうことになる」「嫌なことは嫌だと言える信頼関係が大切」という声もあり、周りにいる人の行動が大きく関わっていることに気付き始めていました。

アクション② poco pono COCO 太田聡美さんから

「居心地のいい居場所づくり」

いじめが起こるのは、「教室の雰囲気」「個人の感情」によるものが多いというお話を聞きました。この２つが悪くなることで、いじめの気持ちが起こるということでした。いじめの気持ちは、自分の心が満たされていないときにやってきます。自分を満たそうとして誰かをいじめてしまいます。いじめを起こさないためには、教室の「雰囲気」をよくすることで心が満たされます。

「安心して過ごせる学校って、どんな雰囲気？」

次の話合いでは、太田さんの話を受けて、自分が「うれしい」「満たされる」気持ちでいるために何が必要かを考えました。「友達の性格や好きなこと、苦手なことを知る」「みんなで楽しめるイベントや交流の場があるといい」といった意見が出ました。学校の雰囲気については、「それぞれの『好き』を否定しない」「意見を言い合える空気が大切」という声が聞かれました。また、「周りをよく見て、元気がなさそうな人に声をかけると、クラスの雰囲気も明るくなる」という意見もあり、一人ひとりの行動が雰囲気をつくっていることに気付いていく様子が見られました。

アクション③

「よりよい人間関係のために、私にできること」

最後の話合いでは、これまでの学びをふまえて、「今の自分に何ができるか」を考えました。会場からは、「苦手な人とも少しずつ話してみて、いろいろな人のことを知りたい」「自分の気持ちだけでなく、相手の気持ちも大切にして、ちがいを認め合いたい」という意見が多く出ました。インタビューでは、「友達でもダメなことはダメと伝えられる関係になりたい」「困ったときは先生や信頼できる大人に相談したい」といった声も聞かれました。いじめを「だれかの問題」として考えるのではなく、「自分の小さな行動で変えられることがある」と気付いた子どもたちの表情は、最初よりも真剣で前向きなものになっていました。グループワークを重ねる中で、子どもたちは、いじめをなくすためには特別なことをするのではなく、日々の言葉や行動を見直すことが大切だと学びました。

インタビュー

みんなが考えた「私にできること」

会場からは、「自分から声をかけたい」「クラスの友達のことをもっと知りたい」といった前向きな意見が多く聞かれました。また、「友達同士でも、ダメなことはダメと伝え合える関係になりたい」「SNSなどでメッセージを送る前に、相手の気持ちを考えたい」という声もあり、言葉や行動に気を付けようとする気持ちが育っている様子が伝わってきました。困ったときには、一人で抱え込まず、先生や信頼できる大人に相談したいという意見や、注意するときは強い言い方にならないようにしたいという考えも出ており、思いやりを大切にしようとする姿が見られました。

授業の前と後で、考え方はどう変わった？

授業を通して、「いじめは良くないと分かっていても、どうすればよいのか分からなかったが、具体的な解決の方法を知ることができた」という声が聞かれました。また、「いじめは自然に起こるものではなく、人の考え方や受け取り方のちがいから生まれることがある」と気付いた児童・生徒もいました。いじめには様々な形や始まり方があることを理解し、これまでより深く考えられるようになった様子がうかがえました。

印象に残ったコーナーやお話

会場からは、太田聡美さんの「雰囲気づくり」のお話が心に残ったという意見が多く出ていました。学校の雰囲気が変わると、自分たちの気持ちも変わることに気付いたという声もありました。また、教授の先生やセンター校・リモート校のみんなとの話合いを通して、いろいろな考え方にふれることができたことや、ジブンミカタプログラムの効果について学べたことが印象に残ったという感想も聞かれました。

こんな意見もありました

「今のクラスは、あまりよい雰囲気ではないと感じている。だからこそ、自分から行動して、少しずつ変えていきたい」という意見も出ていました。一人ひとりがクラスの雰囲気をつくっていることに気付き、自分にできることから始めようとする気持ちが育っていることが分かりました。

poco pono COCO 代表
太田聡美さん

参加者が真剣に話合う様子を見て、「学校やクラスの雰囲気は、とても大切です」と話されました。人にはそれぞれちがいがあり、そのちがいを知り、話合うことで、困ったことも解決していけると教えてくださいました。

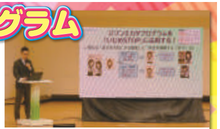
また、「一人ひとりの『好き』を大切にして、友達のよいところを見つけてほめ合える場所を、みんなでつくっていきましょう」と、やさしい言葉で応援してくださいました。友達や先生、まわりの大人とつながりながら、思いやりのある雰囲気を育てていくことの大切さを伝えてくださいました。

人間環境大学総合心理学部教授
伊藤義徳先生

みんなの話合いを聞きながら、「群れで生活する動物は、本能として、上に立とうとするものが弱いものを排除しようとする仕組みをもっている。しかし、人間には理性がある。その理性を生かして本能をコントロールすることが大切」と教えてくださいました。

そして、「いじめを見たときに、何もしないでいると、いじめを止めることはできません。大きなことをしなくてもいいので、自分にできる小さな行動を考えてほしい」と話されました。黙って見ている人にならず、やさしい行動を選ぶ勇気の大切さを伝えてくださいました。

ジブンミカタプログラム



アクション3で人間環境大学総合心理学部の伊藤義徳先生からジブンミカタプログラムについてお話がありました。ジブンミカタプログラムは、月に1回、自分の気持ちや考えについていくつかの質問に答えるプログラムです。答えると、アドバイスのメッセージが届きます。

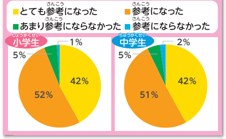
前の月とくらべて、自分がどう変わったのかを知ることができるので、「今の自分」を見つめ直すことができます。自分の気持ちに気付くことで、「人ともっと仲よくなりたい」「新しいことにチャレンジしてみたい」という気持ちも生まれます。

会場にいた多くの参加者がこの取組を続けていて、「自分のことが前より分かるようになった」「気持ちを大切にできるようになった」と、そのよさを感じている様子が見られました。

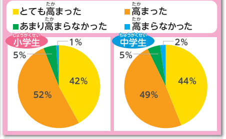
この取組を通して、一人ひとりが人とより良い関係を築くための力を伸ばし、安心して生活できる環境を整え、いじめのない明るい毎日を送ることができるようになればと願っています。

ライブ授業後のアンケート

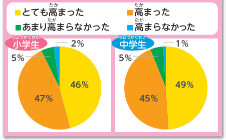
Q1「えひめいじめSTOP!デイplus」は参考になりましたか。



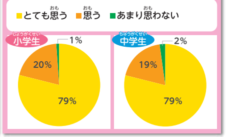
Q2 いじめをなくすために、自分にできることをしようという気持ちは高まりましたか。



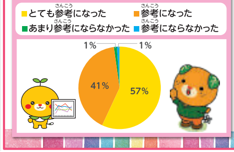
Q3 いじめをなくすために、今後、まわりの人とよりよい関係を築いていこうという気持ちが高まりましたか。



Q4 いじめや差別は絶対にしてはならないと思いますか。



Q5 学校として参加した感想を一つ選択してください。



参加者からの感想

- 日常生活の中で、いじめに発展する可能性のある言動を敏感に感じ取る生徒が増えるとともに、いじめのない集団をつくっていこうとする意欲の高まりが感じられた。
- 同学年の児童が、たくさん話していることや話の内容のレベルの高さに感銘を受けていた。愛媛県内の同学年の児童と間接的ではあるが関われたことに大変感謝している。
- ライブで、どんどん考えて発言していく同じ学年の子どもを見て、自分の意見と比べたり、真剣に考え取り組めたりできていた。大変よかったと思う。また、司会者が上手に話を振ってくれるので、見ていても面白かった。あっという間の時間だった。